

## 気候情報

# 2004年6月の日本の天候

## 高温（南西諸島を除く全国）、台風が2個上陸

### 6月の天気概況

5月29日に九州、中国、四国地方が梅雨入りしたのに続き、6月6日～7日には近畿地方から東北地方にかけて梅雨入りした。しかし、オホーツク海高気圧がほとんど出現しなかったことなどにより梅雨前線の活動は不活発で、特に中旬は、日本付近が太平洋高気圧や移動性高気圧に覆われることが多かった。このため南西諸島を除き全国的に晴れて気温の高い日が多かった。

また、6月には台風が5個発生し、そのうち台風第4号と第6号が、位置が平年より北東に偏った太平洋高気圧の西の縁に沿って北上し、本土へ上陸した。統計を開始した昭和26年以来、6月の台風発生数5個は最多記録となり、6月に台風が2個上陸したのは平成9年に並ぶ上陸数の1位タイ記録となった。

**上旬：**前半は梅雨前線が日本の南海上にあって移動性高気圧に覆われ晴れた所が多かったが、後半は梅雨前線が北上したため各地で梅雨入りし、曇りや雨の日が多くなった。一方、南西諸島は前線や低気圧の影響で、期間を通して曇りや雨の日が多く、9～10日は台風第4号が沖縄地方を通過し暴風や大雨となった。なお、6日に近畿、東海、関東甲信地方、7日に北陸、東北地方が梅雨入りした。**旬平均気温**は、北・西日本で高く、東日本、南西諸島で平年並だった。**旬降水量**は、東日本太平洋側と南西諸島で多く、北日本太平洋側と西日本で少なく、北・東日本日本海側で平年並だった。**旬日照時間**は、南西諸島で少なく、東・西日本日本海側と北日本で多く、東・西日本太平洋側で平年並だった。

**中旬：**11日には台風第4号が高知県東部に上陸し西日本を中心に大雨となる等、初めは台風や梅雨前線の影響で曇りや雨の所があったが、その後、梅雨前線は日本の南海上に南下し不活発となって、高気圧に覆われ晴れた所が多かった。**旬平均気温**は、南西諸島で低かったほかは高かった。**旬降水量**は、北・東日本日本海側と西日本太平洋側で平年並だったほかは、少なかった。**旬日照時間**は、全国で多く、東・西日本を中心にかなり多かった。

**下旬：**21日には南西諸島の東を北上した台風第6号が高知県室戸市付近に上陸し、日本海へ抜けたため、南西諸島から東日本にかけて強風や大雨となった。台風通過後は台風から変わった低気圧の影響を受けた北日本を除き晴れたが、中頃から再び梅雨前線の活動が活発となり、東日本や西日本を中心に曇りや雨の日が多くなった。なお、沖縄地方は23日頃、奄美地方は24日頃に梅雨明けした。**旬平均気温**は、南西諸島で平年並のほかはかなり高かった。**旬降水量**は、北日本で多く、東・西日本で平年並で、南西諸島ではかなり少なかった。**旬日照時間**は、北日本日本海側で少なく、東日本太平洋側、西日本で多く、北日本太平洋側、東日

本日本海側、南西諸島で平年並となった。

### 6月の気候統計

**平均気温：**南西諸島で平年を下回ったほかは、全国で平年を上回った。特に北海道と東北、九州地方では平年を2℃以上上回ったところがあり、雄武(北海道)など32地点で6月の月平均気温の最高値を更新し、4地点でタイ記録となった。

**降水量：**東海地方と南西諸島などで平年を上回ったところがあったが、そのほかの多くの地域では平年を下回った。特に九州地方では平年の40%以下となったところがあり、人吉(熊本県)、牛深(熊本県)では6月の月降水量の最小値を更新した。

**日照時間：**東北地方の日本海側と南西諸島を除いて平年を上回った。特に北海道、東北、関東、九州地方では平年の140%以上となったところがあり、大島(東京都)では6月の月間日照時間の最大値を更新した。

(気象庁観測部統計室)

### 6月の記録（1位更新のみ）

#### ・月平均気温の高い方から（℃）

雄武 15.4 北見枝幸 15.5 紋別 16.0  
 甲府 23.4 京都 24.4 大阪 24.8  
 高知 24.0 山口 23.3 長崎 24.5

など、計32地点

広島 24.0 鹿児島 25.0

など、計4地点タイ記録

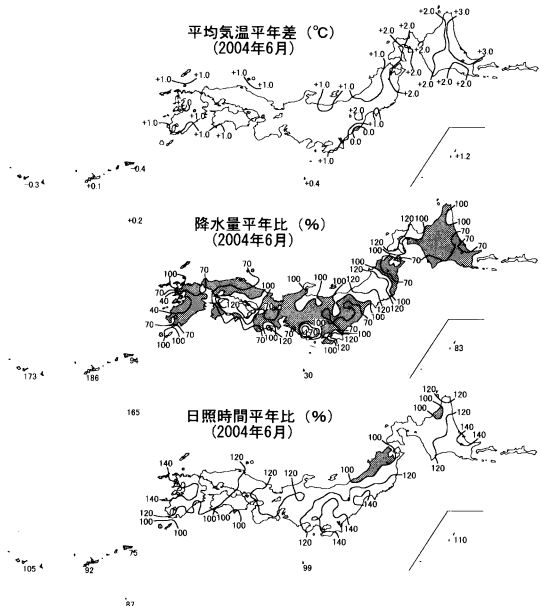
#### ・月降水量の少ない方から（mm）

人吉 136.0 牛深 52.0

#### ・月間日照時間の多い方から（時間）

大島 150.0

### 2004年6月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す